

グルタチオン点滴による認知症治療

グルタチオンは生命の基幹物質と言われ、肝機能を改善することで有名ですが認知症でも有効であることが証明されています。

グルタチオンは脳にとって最も重要な抗酸化物質の一つであり、脳を様々な有害物質から守る役割を担っています。

たとえばアルツハイマー型認知症では、アミロイドβというタンパク質が脳に蓄積して神経を殺すと考えられていますが、ミトコンドリアの中に入り込んだアミロイドβは、エネルギー代謝の働きを妨げ、活性酸素を発生させ、それによってミトコンドリアを死滅させた結果、神経細胞死を招いて認知症を発症させるのだと考えられます。

細胞内のグルタチオンは活性酸素を捕まえて消去するのですが、年齢と共にグルタチオンの産生が減少し、細胞はミトコンドリアが発生した活性酸素を処理できなくなり細胞死を来します。

細胞内のグルタチオンの濃度を高めると、活性酸素の一種である過酸化水素や過酸化脂質の除去がスムーズに行えるようになり、それらを自ら細胞外へ排出させて、細胞の解毒を行なうことで細胞死から免れさせます。

グルタチオン点滴15分で認知機能、アパシー（情緒障害）、意識障害を改善する症例があらわれて来ています。

グルタチオン点滴の1回投与量は

2000～3600mg程度で、有効期間は4日～7日持続します。

当院での長期投与例の経験では、認知症を元に戻すことはできませんが他の治療法と較べて、ほぼ同じ状態で進行を遅らせることができます。

認知症に対して、グルタチオン点滴とフェルガード経口投与は当院のおすすめ治療の一つです。